

# いがとこわか通信 vol.2

## ～三重とこわか国体をもっと知ろう～

昨年の福井国体で優勝し、「三重とこわか国体」伊賀市開催競技のサッカー（女子）に出場が期待されている伊賀フットボールクラブくノーの大嶽直人監督（写真左）、杉田亜未選手（写真中）、宮迫たまみ選手（写真右）に話を聞きました。

**Q. これまでの国体に参加された印象を教えてください。**

**(宮迫)** 開催地の人たちが協力して盛り上げてくれる大会だと感じます。さわやかな気持ちで試合に臨むことができ、雰囲気がとても温かい大会ですね。

**(杉田)** 昨年の福井国体では、初戦で開催地の福井県と対戦したのですが、観客全員が福井県を応援していて、とても難しい試合でした。

**(宮迫)** でも、小さい子どもたちや宿泊した旅館の女将さんが「三重県がんばれー！」って応援してくれたのが嬉しかったです。

**Q. とこわか国体への思いを教えてください。**

**(宮迫)** 国体は幅広い年齢の人が知っている大会な



ので、なでしこリーグで勝った時よりも、国体で勝った時のほうが「すごいね」って声をかけてくれます。その認知度のある大会で優勝して、伊賀市にサッカーチームがあることをアピールしたいですね。

**Q. 市民の皆さんへメッセージをお願いします。**

**(杉田)** 国体は多くの人が開催地を訪れるので、試合を勝ち進み、決勝戦まで残ったら伊賀市がもっと盛り上がると思っています。三重県が優勝できるように、皆さんの応援をお願いします。

**Q. 最後に大嶽監督からひと言をお願いします。**

**(大嶽)** これから三重とこわか国体の開催まで、次の世代の子どもたちのためにも、くノーだけではなく、市民の皆さんと一緒に夢を追いかけていきたいです。



▲癸酉医会の規則

癸酉医会では、会員の全員が集合する「大会」と、阿拝・山田の両郡を六つの区域に分

近代日本の幕が開けて間もない明治6（1873）年8月、伊賀の地で全国に先駆けて医師の職業団体である医師会が組織されました。上野福居町の医師であった富山淳道らによって設立されたこの医師会は、同年の干支にちなみ「癸酉医会」と名付けられました。

明治政府が、近代的な医療制度を導入するため「医制」を發布するのは明治7（1874）年です。この医制を機に、新たな西洋医学の知識を身につけるため、全国で医師が団体を作る動きを本格化させることを考えれば、癸酉医会の発足が、どれだけ先駆的なものであったか分かりません。

明治12（1879）年9月改正の「癸酉社仮規則（日根野家旧蔵資料）」によると、癸酉医会の活動は、医師の研究や関連法令への精通、衛生法の周知などが中心とされています。

## 伊賀の歴史余話

5

▼表：「小会」の区域

区域	町 村 名
一之部	上野町
二之部	小田・花ノ木・長田・島ヶ原・新居村
三之部	丸柱・府中・三田・中瀬村
四之部	川合・玉滝・鞆田村
五之部	東柘植・西柘植・壬生野村
六之部	山田・布引・阿波・友生村

※明治26年5月改正「阿拝山田組合医会（伊賀癸酉医会）規則」（日根野家旧蔵資料）より

明治政府が、近代的な医療制度を導入するため「医制」を發布するのは明治7（1874）年です。この医制を機に、新たな西洋医学の知識を身につけるため、全国で医師が団体を作る動きを本格化させることを考えれば、癸酉医会の発足が、どれだけ先駆的なものであったか分かりません。

明治政府が、近代的な医療制度を導入するため「医制」を發布するのは明治7（1874）年です。この医制を機に、新たな西洋医学の知識を身につけるため、全国で医師が団体を作る動きを本格化させることを考えれば、癸酉医会の発足が、どれだけ先駆的なものであったか分かりません。

中央政府が、まだ近代国家としての日本の姿を模索していた頃、都市部の医療に遅れまいと結集した伊賀の医師たちの情熱が、多くの患者を救い、次世代の医師を育む原動力となっていました。

文化財課  
TEL 52・4380  
FAX 52・4381